

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

695-733

事務事業名	塚原古墳公園整備事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	生涯学習・スポーツ課		包含する細々目	1	10	5	3	12	2	3,000
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり											
施策	63 地域資産の保存継承											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	必要	関連計画条例等		文化財保護法 飯田市文化財保護条例				
		事業期間	12	年度～	28	年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	塚原古墳群	古墳数(基)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			16			
		塚原古墳群の整備対象面積(m <sup>2</sup> )	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			72000			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
古墳時代の伊那谷がわが国の政経上の中核を担った事実を端的に表す塚原古墳群を史跡に指定するとともに公園整備し、歴史学習の場として活用しながら後世に保存継承する。	整備された面積(m <sup>2</sup> )	18目標	6011	最終目標	72000	28
		18実績	6011	19目標	6011	↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度
	古墳を活用した学習活動の回数(回)	18目標	10	最終目標		28
		18実績	7	19目標	15	↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	古墳時代、この伊那谷は馬生産によって、わが国の政治経済上で重要な位置を占めてきた事が今までの調査・研究により明らかになってきた。その証拠として飯田市内には23基の前方後円墳と数多くの古墳が残っており、全国的にも注目されている。その中でも中心的な場所として位置付けられる塚原古墳群一帯について国史跡指定を目指し、国史跡指定後は、学識経験者による整備委員会を組織し、整備活用計画についての指導を受けながら、学習交流の拠点とするべく古墳公園として整備し、保存継承を図るものである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>塚原古墳群内の仮整備</li> <li>学習会等の開催・学校との連携(総合学習等の教材・現地学習の場としての提示)</li> <li>借地</li> <li>市内主要古墳総合調査研究事業の一環に位置づける。(塚原古墳群に関する資料調査・指導委員会設置と委員会の開催)</li> </ul>	学習活動・整備活動(回)	5
		<ul style="list-style-type: none"> <li>国指定にかかわる計画の提示</li> <li>指定に向けての範囲確認調査(塚原二子塚古墳)</li> <li>史跡指定に向けての調整事務</li> <li>市内外への周知・情報発信</li> <li>学習会等の開催・学校との連携</li> <li>住民参加型の保存整備活動システムの検討</li> </ul>	学習活動・整備活動(回)	15

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		1,500
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	619	1,500
事業費計(A)	619	3,000	
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,500	19年度 2,500
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	5,364	8,940
	トータルコストA+B	5,983	11,940

特定財源内訳や補足事項	国宝重要文化財等保存整備費(50%):国庫補助 文化庁
-------------	-----------------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	地域資産を見出し保存・継承する。	保存・継承への支援	現状値	30	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	36
	保存・継承している地域資源の数		現状値	436	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	520	

<p><b>この事業を開始したきっかけ</b></p> <p>全国的に注目されている古墳群であり、全国から研究者が、現地を訪れ出土資料の見学に訪れる。地元竜丘地区では「古墳を考える会」が中心となって学習・研究活動や古墳を使ったイベントを実施し、保存継承に努めている。</p>	<p><b>事業を取り巻く状況の変化</b></p> <p>古墳群の一面では、市民農園・産直販売施設を地元の方が運営するようになり、交流の場としての機能を果たしている。</p> <p>周辺では、道路・事業所等の建設のため古墳群全体の姿が変わりつつある。</p> <p>平成16年度に文化庁より、「塚原古墳群だけでなく、飯田市全体をみる必要がある」との指導を受けた。</p> <p>飯田市の重点事業として天龍峡周辺の利活用を検討中であり、距離的にも近い塚原周辺と関連させた事業展開が必要と考えられる。</p>	<p><b>事業に対する市民や議会の意見</b></p> <p>飯田の歴史を理解する上で欠くことのできないものであるばかりでなく、全国的にも貴重な古墳群であり、地元自治会から整備・活用・保存継承の要望が出ている。地元も保存継承活動を行っている。</p>
---	---	--

## 【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	<p>(評価) <b>結びつく</b> (その理由)</p> <p>史跡として整備し学習の場としての活用が可能となることで、地域への認識が深まると同時に、飯田市(国民)共有の貴重な財産として守られる。また、官民協働での活用・保存継承活動の実践によって、地域を語り交流する場となる。</p>	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	<p>(評価) <b>余地がある</b> (その理由)</p> <p>地元竜丘地区と市が協働して見学会や保存継承活動等が実施されているが、今後更に活動を推進させる。</p>
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	<p>(評価) <b>必要性がない</b> (その理由)</p> <p>市内に数多く存在する古墳のなかでも、古墳群としての残りもよく、眼下に天竜川を見下ろすという景観的にも良好である。</p>		廃止・休止した場合の影響はありますか？	<p>(評価) <b>影響あり</b> (その理由)</p> <p>文化財保護法の趣旨に添って地域資産の保存継承を行っており、保存継承ができなくなるおそれがある。</p>
	意図の見直しの必要性はありますか？	<p>(評価) <b>必要性がない</b> (その理由)</p> <p>歴史的景観を生かした史跡公園として目に見える形に整備することで、市民のみならず広く活用の幅が広がる。また、地域に対する認識が深まることにも、当地方の特殊な歴史を県内外に情報発信することが可能となる。</p>		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	<p>(評価) <b>統合不可能</b> (類似事業名、理由)</p> <p>「市内主要古墳整備活用事業」は市内全域にわたる古墳の総合的な整備活用事業である。内容的には相互に関連した事業展開が想定されるが、一連の古墳整備のモデルケースとしてすでに事業が進んでいる。</p>
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	<p>(評価) <b>必要ある</b> (その理由)</p> <p>文化財保護法に基づき、国民共有財産としての文化財保護は市として行うべきものである。その一環として、史跡指定・整備がある。さらに、こうした文化財を将来的に有効に活用しながら保存継承していくためには、市民との協働による活動が不可欠である。</p>		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	<p>(評価) <b>不可能</b> (その理由)</p> <p>民と官の協働で事業展開をしており、恒常的な整備等に当たっての人員費はかなり抑えられている。事業費は直接的な整備を行うための調査・研究、整備にあたっての用地取得等にかかるものであり、現時点では削減は不可能である。</p>
			公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	<p>(評価) <b>妥当である</b> (受益者とその理由)</p> <p>受益者は市民および国民である。負担は市費、国庫補助金になるが、国民共有の財産としての文化財の保存・活用を目的としており、妥当である。文化財保護法の趣旨からも妥当である。</p>

## 【Plan】改革改善

<p><b>今後の事業の方向性</b></p> <p><input type="checkbox"/> 終了</p> <p><input type="checkbox"/> 廃止</p> <p><input type="checkbox"/> 休止</p> <p><input type="checkbox"/> 目的見直し</p> <p><input type="checkbox"/> 別事業に統合</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善</p> <p><input type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>実施年度 <b>具体化</b></p>	<p><b>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</b></p> <p>・塚原古墳群の仮駐車場設置は、継続して調整を進める。・塚原古墳群内の未指定の古墳について、荒地化または近隣に開発が及んでいるものがあり、状況により借地ないし先行取得が必要になる可能性が高い。</p> <p>・地権者はじめ地域に事業の趣旨について、説明を行い、また継続的な学習活動によって、市民に対し理解を深め、周知を図ることを重点的に行っていく。21年度までの範囲確認調査と合わせ、市としての基本方針を策定する中で、住民参加型の保存整備活動システムの計画策定。・平成18年度に作成した「市内主要古墳総合調査研究事業」に関わる報告書をもとに情報発信を図る。</p> <p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p> <p>・市としての史跡指定・保護・活用についての基本方針の策定</p> <p>・住民参加型の保存整備活動システムの構築</p>
---	--

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がある	(2) 必要性な場合の実施事由	2- 新規の事業を実施することが決定したとき
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	民と官との協働での事業展開を図っている。		

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	